

メキシコ市における ストリートエデュケーションの構造

—ストリートエデュケーションの理論と実践枠組み—

小松 仁美*

ストリートチルドレンへの支援が世界的に早急な課題となるなか、国や地域、民間支援団体によって多様に実践が展開されるストリートエデュケーションを取り上げた。

ラテンアメリカ社会において試験的に実践されたストリートエデュケーションは、ストリートチルドレンへのエンパワメント実践であり、ストリートチルドレンを生み出さない社会への変革の理論である。

実践に基づく支援理論として精緻でないことから、理論の精緻化をめざしてメキシコ市の民間支援団体の実践を事例として実践展開の構造を図示した。

メキシコ市ではストリートエデュケーション部門やエデュケーターの配置にかかわらず、ストリートエデュケーションが直接的にも間接的にも重層的に展開された。ストリートチルドレンへのアウトリーチを担うエデュケーターが重要性であるとの示唆を得た。

キーワード：エンパワメント，解放，ラテンアメリカ，社会教育，ストリートチルドレン

はじめに

ユニセフはストリートチルドレンを必要とする特別な支援を受けられていない子どもの問題の一つとして挙げており（2006:35-40）、ストリートチルドレンへの支援は世界的に急務となっている。

ストリートチルドレンがいち早く社会問題化し、支援とともにその定義の精緻化をラテンアメリカ中所得国は試みてきた経緯をもつ（Agnelli 1986, Moulin・Pereira 2000）。ストリートエデュケーションをパイロットプロジェクトとして導入し、その理論化に寄与してきた（Freire 1989）。この中所得国の一つにメキシコ合衆国は位置し（Freire 1989）、首都メキシコ市では国

* 淑徳大学大学院総合福祉研究科社会福祉学専攻博士後期課程単位取得満期退学，淑徳大学大学院総合福祉研究科調査・研究助手

内においても先駆的にストリートエデュケーションを実践し、近年ではストリートチルドレンの人数が大幅に減少している（COPRED 2016, 小松 2019）。

メキシコ市における実践の検討を通じて、近年、発展途上国を中心に導入されるストリートエデュケーションについて示唆が得られるのではないだろうか。

本稿では第一にストリートエデュケーションの位置づけをストリートチルドレンとエデュケーター双方の水平関係の構築と対話に基づく実践かつ支援理論と捉え、第二にメキシコ市の実践を事例とする理由とその実践の概要を示す。第三にメキシコ市における実践を検討し、結果、路上や一次避難施設での衣食医などの緊急支援サービスや定住施設での就学・就業などの自立に向けた直接支援に加え、これらの支援を支えるためのアドボカシー活動や奨学金・運営資金提供などの間接支援が民間支援団体間の連携・協力のもと行われていることに加えて、多層的な実践の展開とアウトリーチを行うストリートエデュケーターの重要性が示唆されたことを示す。

I ストリートエデュケーションとは

1 ストリートエデュケーションに関する研究動向

ストリートエデュケーションは、1980年頃よりラテンアメリカの中所得国において試験的に導入されたストリートチルドレン支援であり、この支援を通じて試論的に導き出されたストリートチルドレンへの支援方法論である（Freire 1989）。

ストリートエデュケーションに関する研究は、ストリートチルドレンの社会問題化とその支援に伴って始まったものの、試験導入したこれら中所得国においても、近年までほとんど行われてこなかったようである。2000年に入り、ムーランとペレイラ（Moulin・Pereira 2000）がストリートチルドレン概念の変遷について論じた際に、ブラジルの教育学者であるパウロ・フレイレとその著作『ストリートエデュケーター（Educadores De Rua）』（Paulo Freire 1989）が概念の精緻化に寄与した旨を言及した。フレイレによりストリートエデュケーションが体系化されて国際的に広まったことを示した研究が、近年になりストリートエデュケーションの研究が進められる契機となったのではないだろうか。

その後、シルバ・デ・パイバ（Silva de Paiva 2005）が『ストリートエデュケーター（Freire 1989）』を社会教育の観点から考察し、リベラレオとグラバウスカ（Liberalesso・Grabauska 2004）やオリベイラ（Oliveira 2007）などのブラジル人社会教育学者を中心にフレイレと関連して進められている。なかでも、シルバ・デ・パイバ（2005, 2006, 2010, 2012）は多数引用されており、ストリートエデュケーションの研究の草分け的存在である。

社会教育分野を中心に研究が進められつつある研究動向を踏まえ、以下ではフレイレとシルバ・デ・パイバの研究を足がかりに、ストリートエデュケーションについて理解を深めたい。

2 ストリートエデュケーション理論

ストリートエデュケーション理論は、シルバ・デ・パイバ（2005, 2006, 2010, 2012）によると、識字運動同様に、フレイレの教育思想や抑圧からの解放の思想を土台としながら、ストリートチルドレンへの支援活動を通じて培われてきた。

フレイレの識字運動は、今日の批判的リテラシーにつながるが（千葉 2010）、自らの境遇を所与のものとしてあきらめ、沈黙の文化に埋没している貧しい農村の非識字者を対象として、非識字者自らが生活のなかで抱える問題を生成テーマつまり学習課題にとりあげて、非識字者と教育者との対話を通じて、その生活に潜む抑圧的状况への批判的認識を深める意識化を通じて行われた（Freire 1968（=三砂 2011）、谷川 2004）。

換言すると、識字運動は世界には非識字者たる被抑圧者と彼らを抑圧する者とが存在し、抑圧者と被抑圧者との対立構造を出発点とする。被抑圧者の解放が抑圧者自身の解放になることに理解を示す一部の抑圧者はラディカルな抑圧者となり、被抑圧者と水平関係を築き、被抑圧者の抱える生活上の課題について対話をする中で、被抑圧者が自らの置かれた状況を理解して変化を求めることによって、被抑圧者の解放に携わる¹⁾。両者の対立構造が打破され、抑圧状況が打破されるのである。

こうした考えに基づく識字運動は、今日の開発のあり方やエンパワメントの概念に大きな影響を与えた（太田 2011）。支援する側と支援される側との対等な立場での対話は、支援する側と支援される側という垂直関係を前提とする支援のあり方に一石を投げ、参加型開発への転機となった。

ストリートエデュケーション理論は、この識字運動の延長線上にあり、被抑圧者たるストリートチルドレンとラディカルな抑圧者たるストリートエデュケーター（以下、エデュケーター）を含む抑圧者という二分法をとる。エデュケーターは、ストリートチルドレンの側に立つ者として想定され、ストリートチルドレンが抱える生活上の問題や課題である生成的テーマを取り上げ、対話を通じてストリートチルドレン自身がその置かれた状況を意識化することにより読み解き、状況に変化をもたらす役割を負う。同時に、エデュケーターは、自身とストリートチルドレンとが分断される支配構造からの自らを解放する（Silva de Paiva 2006, 2012）。

3 実践と理論の関連

ストリートエデュケーションは、実践に基づく帰納的な理論である。フレイレ（1989）は、試験導入および理論化過程において、ストリートチルドレンの定義の精緻化を試みた。精緻で統一的な定義には至らなかったものの、ストリートチルドレンの2類型や3類型による定義をUNICEFや国際NGOが現在用いるものまで精緻化しとし（Moulin・Pereira 2000）、支援対象者をより明確にした。

ストリートエデュケーションは対象者の精緻な定義を伴わないが、これがより個別性の高いス

トリートチルドレンへの支援を可能にしているものと考えられる。ストリートチルドレンは一掃政策や収奪などによりその命や生活が著しく脅かされるリスクを孕む一方で、個々の置かれている状況は個人の資質やその家族の経済状況、取り巻く社会状況に応じて変動的で、多様である。また、ストリートチルドレンのなかには自身や家族が抱える課題や問題について自覚していない者がおり²⁾、必要とする対応を見出し、決定し、説明を通じて理解を得て支援を開始する必要がある。生命の危機を伴う場合、支援の決定・開始は寸秒を争う。ストリートエデュケーションでは、状況の異なる様々なストリートチルドレンがいることを前提に、曖昧さを含む定義となっているのであろう。

厳密な定義を伴わず、多様なストリートチルドレンへの支援が可能であったため、支援の必要性が世界的に高まる潮流にあって、ストリートエデュケーションは社会背景の異なる他の発展途上国において展開されていったと考えられる。世界各地に民間によって担われるノンフォーマル教育実践として広まった (Oliveira 2007, Liberalesso・Grabauska 2004, Silva de Paiva 2005, 2006, 2010, 2012)。公教育を提供することが難しい社会・経済状況の国や地域においても、導入されてきた³⁾。公的資金の投入される小中学校などへのアクセスが難しく十分な就学機会を得ない貧困層の子どもを主な支援対象とする NPO や NGO などによって展開されてきたのである。

以上から、ストリートエデュケーションは、対象者たるストリートチルドレンの定義の精緻化過程を伴う実践かつ実践に基づくストリートチルドレンの支援理論であり、実践と理論が相互循環的に体系化されてきた。対象者は厳密に定義されず精緻な支援理論とはいい難いが、結果的に多様なストリートチルドレンへの支援を可能にしてきた。様々な国や地域で個別の実践が展開されており、よりよい実践に向けて、より一層の理論の精緻化が求められているであろう。

II メキシコ市の事例を取り上げるにあたって

1 ストリートエデュケーションに関連する言葉の整理

ストリートエデュケーションは、ストリートチルドレンとエデュケーター双方の水平関係の構築と対話に基づく両者のエンパワメントの実践であり、実践に基づくエデュケーターとストリートチルドレンの抑圧——被抑圧構造から解放に向けた社会改革を前提とする支援理論である。政治性の強い社会教育活動であるためノンフォーマル教育として広まり (Oliveira 2007, Liberalesso・Grabauska 2004, Silva de Paiva 2006, 2010, 2012)、ストリートチルドレン支援を行う国や地域、個々の民間支援団体などによって多様に展開される。以下では、多様な展開状況を示すため、ストリートエデュケーション実践の一例を紹介する⁴⁾。

たとえば小木曾は、フィリピンにおけるストリートチルドレン支援団体の活動視察から、その団体にはドロップ・イン・センターと共同センター、トレーニングセンターなどの施設・設備が

あり、ストリートエデュケーションとして啓発活動や個別訪問が行われ、エドゥケーターが地域巡回を行っている旨を報告している（2009:40-41）。

各種センターとストリートエデュケーションが独立して併記されることから、当該団体では、独立した部署がストリートエデュケーションを行っているものと推察される。また、エドゥケーターが、ストリートエデュケーションの部署のみならず、多岐にわたる支援活動を担うことが伺える。しかし、部署としてのストリートエデュケーションやエドゥケーターの位置づけ、ストリートエデュケーション理論と実践の関連が不明瞭である。

また、中嶋・中島は、インドにおけるストリートチルドレン支援団体の多様な活動内容の紹介と職員からのインタビューを通じてその活動理念に論じるなかで、エドゥケーターを相談や運営に携わる職種の一つとして示し、代表や利用児などと並んでインタビューしたエドゥケーターの語りを「問題の解決策を模索するのに大人だけが話し合っても何にもならないので、子どもたちが率直に発言しやすい環境作りを目指し…（中略）…ストリートチルドレンをエンパワーするために保護・尊重・機会・参加の権利を、すなわち民主主義を保障している。子どもと、友人として対等な感覚を持って付き合うことが大事だ（2010:9）」と記述する。

エドゥケーターが支援団体の活動理念を担う中核的な存在であることが推測でき、また、インタビュー内容から支援においては参加やエンパワメント、対等性などを重要視していることが伺える。支援活動においてストリートエデュケーション理論のエッセンスが含まれていると考えられる。

ストリートエデュケーションは、実践に関する記述において、エドゥケーターの所属する部署の活動やエドゥケーターの行うストリートチルドレンへの支援全般、路上における巡回・教育のほか直接支援活動、路上での支援活動にデイセンターや緊急一時保護施設での相談や教育活動を指し、用語の一貫性はみられない。同様に、エドゥケーターは、路上における巡回の専門職や保護施設での相談・教育活動の専門職、ストリートエデュケーションの専門部署に配置される職員などを指し、多義的である。実践における多義的な言葉が、ストリートエデュケーションの理解を困難にしているのではないだろうか。

そこで、本稿ではストリートエデュケーションを「理論」、「実践」、「部門」の3つに大別する。エドゥケーターとストリートチルドレン双方の解放の実践の方法を「理論」とし、具体的な支援活動を「実践」とし、支援活動におけるセンター名や部署名として用いるものを「部門」とする。さらに、「理論」においてストリートエデュケーション実践の担い手全体を指したエドゥケーターを「職種」とそのなかの呼称としての「エドゥケーター」に大別する。「部門」を中心に地域巡回や教育活動などの関連する部署や施設に配置されるソーシャルワーカーや心理士、教師などの有資格者や、自らの経験を活かして支援に携わる社会復帰した元ストリートチルドレンなどの専門職を「職種」とする。支援団体により「職種」の呼称は異なり、ファシリテーターやコーディネーターのほか、先生や心理士など資格名が用いられるが、「職種」の呼称として用いられるエドゥケーターを「エドゥケーター」とする。

2 メキシコ市の「実践」を取り上げる理由

対象者を厳密に定義せずノンフォーマル教育として普及されたことで、「実践」では、路上での労働や生活に至った年齢や理由、また、性別、障害の有無や就学歴などの差異により個別性が高く、国や地域によって問題状況が異なるストリートチルドレンへの支援を可能にした。

「実践」が世界各地で多様に展開され、その評価が十分になされていない現状を踏まえて、本稿ではラテンアメリカ中所得国にて培われてきた「理論」に立ち返り「実践」を検討したい。

検討に際して、ストリートエデュケーションが抑圧—被抑圧構造から解放の「実践」かつ「理論」であることから、個々のNGOやNPOの団体単位ではなく、地域社会の単位とした検討を考えた。対象地域は、ストリートチルドレンがいち早く社会問題化し(Agnelli 1986)、ストリートエデュケーションを先駆的に導入し、その理論化に貢献してきたメキシコ合衆国(Freire 1989)を選定した。しかし、同国は、国土が約196万平方キロメートル(日本の約5倍)あり、都市化率が約8割に達し、メキシコ市の人口は第2の都市グアダハラ(Guadalajara)の約2倍の892万人弱であり⁵⁾、都市部の最低生活費は農村部の約1.5倍である⁶⁾。国土が広く、国内の格差が大きい国内事情を鑑み、対象地域をより焦点化する必要から、ストリートチルドレン問題が最も深刻化し、いち早く「実践」を導入したメキシコ市を選定した。

3 メキシコ市におけるストリートチルドレン支援の概要

メキシコ市においてストリートチルドレンは、1980年代以の経済危機に伴い、都市下層から大量に生み出され(Otero 1999, UNICEF 1996, 畑 2005)、1990年代を中心にその人数が1万人を超えた(小松 2019)。2001年から政策上の支援対象者となったもの⁷⁾、歴史的経緯に加えて福祉予算の逼迫・切り詰めから、ストリートチルドレンへの支援は主に民間に担われてきた。ごく一部の公立の定住施設を除いて、多数の教会や草の根の市民活動、一部の財団法人、民間支援団体(Instituciones de Asistencia Privada)によって担われる。

このうち民間支援団体は日本のNPOにあたり、政府機関に所在地・設立年・ミッションなどが登録団体情報に記載され、この記載に即した活動と年次報告書の提出が課される。民間支援団体は2006年時点⁸⁾において504団体存在し、うち15団体が登録団体情報上にストリートチルドレン支援を明記していた。15団体の近年の活動実績を2019年1月時点の登録団体情報、各団体のホームページ、年次報告書などから表1にまとめた⁹⁾。以下では15団体の活動を概観する。

支援対象者は、性別や年齢層などにより限定される。男性はストリートチルドレン全体のおよそ8割を占め、いち早く支援が開始され、現在も主な対象者層である。女性は割合としては少なく、支援が後発で開始されたものの、男性に比べてよりリスクが高いこともあり現在では妊娠や出産などのより専門特化した支援を含めて展開される。年齢層は18歳未満の未成年者を主な対象とし、近年では問題状況の継続する成人へと拡充されつつある。

表1 民間支援団体の支援内容

設立年	民間支援団体の名称	市内での 2014-2018 年のストリートチルドレンの支援活動とその実績			「部門」の設置	「職種」の配置	「職種」の名称
		保有・運営施設数	対象者	支援実績			
1918	Fundación Clara Moreno y Miramon	1 箇所の定住施設を運営	4-17 歳までの女性	毎年平均 70 名を支援	不明	不明	
1979	Hogares Providencia	10 箇所の定住施設を運営	ストリートチルドレンとその予備軍	2018 年は 269 名を支援	—	○	「エデュケーター」、教員、ファシリテーター、看護師ほか
1982	Casa de los Niños de Palo Solo※1	2 箇所の定住施設を所有	子ども	650 名以上へ教育支援を実施	不明	不明	
1988	Centro de Educacion Infantil para el Pueblo※2	不明	10 ヶ月-6 歳の主に就学前児童	2015 年は 75 名へ教育支援を実施	不明	不明	
1988	Fundación Casa Alianza México	6 箇所の定住施設を運営	12-18 歳までの男女	約 120 名を支援	○	○	「エデュケーター」、教員、看護師ほか
1989	Fundación Emmanuel※4	1 箇所の一次避難施設と複数の定住施設を運営	不明	不明	不明	不明	
1989	EDNICA	3 箇所の施設を所有	ストリートチルドレンとその予備軍	319 名を支援	○	○	「エデュケーター」
1990	Fundación Dejame Ayudarte	1 箇所の定住施設を運営	不明	不明	不明	不明	
1990	Fundación para la Proteccion de la Niñez	1 箇所の施設を所有	ストリートチルドレン支援団体を含む各種団体	2015 年は 550 団体以上に資金援助	—	—	
1992	Programa de Teatro Callejero	1 箇所の施設を所有	10-17 歳のストリートチルドレンを含む青少年	演劇を通じて支援	—	○	教師
1993	Fundación Pro Niños de la Calle	各 1 箇所、デイセンターと一時定住施設※3 を運営	ストリートチルドレンと路上で成人年齢に達した若年層ホームレス その家族	152 名を支援 29 家族を支援	○	○	「エデュケーター」、コーディネーター
1993	Ayuda y Solidaridad con las Niñas de la Calle	2 箇所の施設を所有し、うち 1 箇所は定住施設	2-20 歳の子どもおよび青年	不明	○	○	「エデュケーター」
1994	Fundación de Apoyo a los Programas en Favor de los Niños de la Calle de la Ciudad de México	2 箇所の施設を所有	個人および団体	主に経済的な支援	—	—	
1997	Fundación Dar Y Amar (Casa DAYA)	1 箇所の定住施設を運営、定住施設に隣接した保育所（一般利用可）を運営	13-16 歳のストリートチルドレンとその予備軍の 妊娠期を含むシングルマザーとその子ども	8-20 組の母子を支援	—	○	ファシリテーター、看護師、コーディネーターほか
2001	Casa de las Mercedes (旧、Fundación Casa de las Mercedes)	2 箇所の定住施設を運営	女子のストリートチルドレンとその予備軍	不明	不明	不明	

JAPDF の HP および各民間支援団体の HP に基づき、聴き取りによる情報を補足しながら筆者が作成した。

※ 1 メキシコ州にて定住施設を 1 つ運営。

※ 2 2006 年には登録されていたが 2019 年には登記上存在しなかった。

※ 3 一時定住施設は定住施設利用が困難な年長者の自立に向けて、2009 年に運営が開始された。

※ 4 グアダハラ、グアナファト、ゲレロ、メヒカリ、ミチョアカン、モレーロス、ナジャリ、プエブラ、ケレタロをはじめとする 17 州で支援活動を展開している。

施設設備は多様である。定住施設には、10-20名ほどを対象に個室で家庭的な支援を行うものから、50名以上が居室・食堂などの施設設備を共同利用するものまであり、一団体の運営するその数も異なる。定住施設以外に、一次避難施設やデイセンターなどの一時滞在型の施設設備や、障害・特定疾患・薬物治療などの専門的ケアを提供する施設設備のほか、家族支援や外部へも開放する保育所などの施設設備がある。施設設備面から、複合的な支援が実施され、一部には多機能型の施設が運営されるといえる。

活動内容は、施設設備と時間経過に伴い変遷している。例えば、開設当初に定住施設のみを運営し、後に一時的にデイセンターを運営開始した団体は、開設当初の定住施設における直接支援と対象者が家族や地域に帰るための間接支援に、デイセンターや路上を中心にした直接支援や資金援助などの間接支援が加わり、その支援活動を徐々に拡大し多様化させた。個々の団体の変化のみならず、民間支援団体の活動全体を通してその活動内容は変遷している。ストリートチルドレンの社会問題化と時期を同じくして1990年代を通じて定住施設や一次避難施設やデイセンターが開設され、次いで、専門的ケアや直接支援のための施設設備を持たない資金提供などの支援がはじまり、団体間の連携が図られるようになった。

以上のような支援の拡充過程は、ストリートチルドレンの政策上の支援対象者化、ストリートチルドレンを生み出す都市下層の子どもへの奨学金や条件付き給付金などに関連して、ストリートチルドレンの減少に一定程度寄与したと推察される。ストリートチルドレンの人数は2000年頃を境に減少に転じ、現在は1万人を下回る（小松 2019）。

メキシコ市の民間支援団体によるストリートチルドレン支援の活動は、ストリートチルドレンを生み出す抑圧——被抑圧社会の構造を変えつつあると言えるのではないだろうか。メキシコ市の事例検討は、ストリートエデュケーションの理解をより深める一助となろう。

III メキシコ市におけるストリートエデュケーション「実践」の構造

1 「部門」の設置と「職種」の配置、「エデュケーター」の有無

民間支援団体15団体における、ストリートエデュケーション「部門」の設置とこの「部門」を中心に地域巡回や教育活動などの関連する部署に配置されるエデュケーター「職種」、この「職種」のなかで「エデュケーター」という呼称が用いられるかについて、前掲の表1に示した。「部門」や「職種」は、必ずしも登録団体情報や年次報告書、HPなどに記載されていない。より詳細に調べる必要はあるが、聞き取りや視察などで判明している9団体について以下では概要を示したい。

「部門」を設置し、「職種」を配置するのは、Fundación Casa Alianza México（以下、カサ・アリアンサ）、EDNICA, Fundación Pro Niños de la Calle（以下、プロ・ニーニョス）、Ayuda y Solidaridad con las Niñas de la Calleの4団体である。「部門」を設置せず、「エデュケーター」

の呼称で「職種」を配置するのは Hogares Providencia (以下、プロビデンシア) の1団体である。「部門」を設置せず、指導者やファシリテーターなどの呼称で「職種」を配置するのは、演劇を通じた支援を行う Programa de Teatro Callejero (以下、テアトロ・カジェヘロ)、母子支援を専門とする Fundación Dar Y Amar (Casa DAYA) (以下、カサ・ダヤ) の2団体である。双方ともに設置・配置されていないのは、資金援助やアドボカシーを中心に行う Fundación de Apoyo a los Programas en Favor de los Niños de la Calle de la Ciudad de México (以下、アポジョ・ア・ロス・プログラマス) や Fundación para la Protección de la Niñez (以下、プロテクシオン・デ・ラ・ニニェス) の2団体である。

メキシコ市では1990年代初めから「部門」や「職種」が設置・配置されていたことが伺える。「部門」・「職種」を設置・配置する団体のなかでその詳細がわかるのは、カサ・アリアンサ¹⁰⁾と、そのストリートエデュケーション「部門」から分離・独立して設立されたプロ・ニーニョスである。

カサ・アリアンサは、いち早くストリートエデュケーション実践を取り入れ、路上における直接支援サービスや社会復帰支援へのアウトリーチおよび社会復帰支援を担う「部門」を設置した。「部門」および「部門」以外の一時避難所や一時定住施設などに専門職として「エデュケーター」や教員、看護師などが「職種」として配置される。特に「職種」のなかでも路上と一次避難所などの路上に近い施設では「エデュケーター」が支援にあっている。

プロ・ニーニョスは、アウトリーチを専門的に行う「部門」のほか、デイセンターと家族への再統合支援の部署を持つ。近年では一時定住施設を開設し、家族支援の部署を設置した。「職種」は、「部門」の他、デイセンターや家族への再統合に配置され¹¹⁾、直接支援サービスを担う職員を「エデュケーター」と呼ぶ。

「部門」を設置せず「職種」を配置するプロビデンシア¹²⁾は、メキシコ市におけるストリートチルドレン支援の草分け的な団体として知られる。ストリートエデュケーションの確立以前から、設立者のガルシア神父を中心にストリートチルドレンに寄り添った支援を行ってきた。神父はストリートチルドレンを理解する手立てを示した多数の書籍を出版し、ストリートチルドレン自身が自分の価値に気付きを持てるようにする独自教材¹³⁾を開発するなどして、「実践」と「理論」双方に貢献してきた。神父の亡き後は、その意志を引き継いだ「エデュケーター」¹⁴⁾により必要に応じて路上での巡回や相談活動が実施されている。この「エデュケーター」の他に、「職種」として本部や定住施設の一部に教員やファシリテーター、看護師などが配置される。

テアトロ・カジェヘロとカサ・ダヤは、「部門」を設置せず「エデュケーター」以外の「職種」が配置される。テアトロ・カジェヘロでは路上でストリートチルドレンへの演劇指導にあたる教師が「職種」である。カサ・ダヤは、女子のストリートチルドレンの妊婦と母子支援を専門とする数少ない定住施設であり、母子の社会復帰支援を支える保育士や看護師などのファシリテーターとそれらを取りまとめるコーディネーターが「職種」にあたる。

以上のように、民間支援団体によるストリートエデュケーションは、「部門」以外にも、デイセンターや定住施設など様々な施設設備および部署で「実践」される。「職種」は、「エドゥケーター」のみならず、教員やファシリテーター、看護師など様々な呼称で、「部門」のみならず、デイセンターや一時避難所や一時定住施設、定住施設に配置される。しかし、「エドゥケーター」の配置は、主として「部門」と関連し、あるいは、路上やデイセンターや一時避難所といった支援の初期段階に関わる専門部署における専門職として配置される傾向が伺える。「エドゥケーター」は「職種」のなかでもストリートチルドレンへのエンパワメントに関わる「実践」の重要な担い手であると考えられる。加えて、プロビデンシアやカサ・アリアンサなどの支援活動にみるように、メキシコ市では「理論」の確立以前から実践的な取り組みがなされ、1980年代末から「部門」が設置され、その専門職として「エドゥケーター」を含む「職種」が配置されてきた。メキシコ市では世界に先駆けて、非常に早い段階で「実践」が導入されたといえる。

2 民間支援団体間の連携・協力関係

15団体は、それぞれの支援対象と内容が異なるため、必要に応じて連携する。以下では、①定住施設などを運営する直接支援を行う団体と、②資金援助やアドボカシーなどの間接支援を行う団体とを大別して、各団体のHPや登録団体情報、年次報告書などと活動視察に基づいて、民間支援団体間を始めとするその他の支援団体との連携・協力関係について述べていく。

①の直接支援団体は、それぞれが持つ施設設備、直接支援プログラム、支援対象者や受け入れ可能人数などが異なる。例えば、女子のストリートチルドレンの支援を担う民間支援団体には、Fundación Clara Moreno y Miramon（以下、クララ・モレノ）、カサ・アリアンサ、カサ・ダヤがある。これらは、それぞれの受け入れ人数に限りがあり、支援対象者も異なるため、必要に応じて連携がはかられる。具体的には、カサ・アリアンサの「エドゥケーター」が路上生活する女児を発見したが運営する定住施設に空きがない場合には、その女児の希望を伺いながら提供可能な支援により、低年齢であればクララ・モレノへ、妊婦であればカサ・ダヤへと紹介され、支援を受けることとなる。他にも、路上で巡回活動を行う「エドゥケーター」がいないカサ・ダヤは、ドロップアウトした支援対象者の搜索やフォローアップを、「エドゥケーター」のいる財団法人のYolia Niñas de la Calleなどと連携して実施する。

男子への支援では、例えば定住施設を持たないプロ・ニーニョスは、家族への再統合が難しい男児についてはEDNICAやカサ・アリアンサなどの一時避難施設や定住施設へと繋げ、自立支援を支える。他にも、メキシコ市とその周辺以外の農村や地方都市から移動して来た男児の場合は、メキシコ合衆国の各地に定住施設を持つFundación Emmanuelやその男児の出身地域の民間支援団体などと連携する。

このように、支援を必要とする個々のストリートチルドレンの状況と、それぞれが提供できる

サービスや施設、受け入れ体制などに応じて、その他の支援団体との連携・協力が取られている。

次に②の資金援助やアドボカシーを行う2団体は、以下のように連携する。プロテクション・デ・ラ・ニニエスは、独自に資金を集めて、カサ・ダヤやプロビデンシアなどに資金提供する一方で、資金提供先の活動の広報やボランティアの募集などを行う。資金提供先の活動を一般市民に評価してもらうことで、自らの活動が評価され活動を円滑に行えるのみならず、これにより施設運営職員数の少ないカサ・ダヤやプロビデンシアは活動を一般に広く周知できるとともに、ボランティアを集められる。他にも、アポジョ・ア・ロス・プログラマスは、定住施設に暮らすストリートチルドレンが就学する際の経済援助や民間の様々な支援団体への資金提供などを行う。路上での生活や労働をやめた後の子どもの安定した定住・就学・就職を支えることで、支援からのドロップアウトを防いでいる。

以上のように、民間支援団体の「実践」は、直接支援を行う団体間の連携・協力だけではなく直接支援を行う団体と間接支援を行う団体との連携・協力関係、さらには、民間支援団体間にとどまらず、財団法人などその他の支援団体との連携・協力関係のもと行われる。

3 メキシコ市におけるストリートエデュケーション「実践」の構造

上記した民間支援団体による「実践」を図1にまとめる。小さな矢印のついた円形は直接支援を行う場所と直接支援の内容を示し、その矢印は子どもがストリートチルドレンおよびその予備軍となり、支援を受ける過程を示す。これらを取り巻く大きな楕円形は間接支援を示す。

直接支援は、支援する場所と関連し、路上からデイセンター、定住施設などへと段階的に行われ、家族や社会への再統合に向けて就学・就業支援と必要に応じた専門的ケアの提供が行われる。間接支援は、これらの直接支援を就学・就業などの際の市民への理解の促進やアドボカシー、資金援助などにより支える。連携・協力関係にもとに直接的にも間接的にも多様な支援が展開されている。

それぞれの直接支援は、次の通りである。都市下層の集住地域では、経済的援助や家族支援など子どものストリートチルドレン化の予防支援が展開され、必要に応じて定住施設などで子どもの保護・養育がなされる。

路上では、「エデュケーター」を中心に「職種」が労働・生活を開始した子どもへのアウトリーチを行い、衣食住医などの支援を開始するとともに、社会復帰支援への個々の希望が伺われ、家族への再統合支援または定住・就学・就業過程を通した自立支援へと繋げられる。

家族への再統合支援は、ストリートチルドレンとその家族が帰宅を希望し、なおかつ、「職種」が家庭内に命に関わるような児童虐待や路上での児童労働の強要がなく、介入によって帰宅後の子どもが安全な家庭生活を送られると判断する場合に行われる。年齢や状況に応じて、家庭生活を営みながらの就学し、安定的な仕事を得て地域で暮らせるように、家族・学校・地域へと働きかける。

自立支援は、家族への再統合の困難な者を対象とし、必要とする支援の段階や年齢により差異はあるが、定住・就学・就業支援を経て成人年齢をおおよその目安として地域で自ら生活を営めるように促す。なお、未就学児やシングルマザー、障がい者など特別なケアが必要な場合は、より専門的な施設設備を持つ団体・機関での支援に繋げられる。

デイセンターや一次避難施設は、直ちに定住施設に移行し難い長期路上生活者などを対象者とし、昼夜逆転の生活リズムを整え、薬物の使用を絶ち、シャワーや歯磨きで身体の衛生を保つなどの共同生活に必要な最低限度の生活スキルの獲得を促し、定住施設への移行支援を行う。

定住施設では、年齢や就学歴などに応じてさらなる生活スキルの獲得が目指され、職員や他の支援対象者との関係性や施設生活への順応状況に応じて就学・就業支援が行われる。就業し、間借りや賃貸契約に必要な初期投資費用の貯蓄後、最終的には地域での自立生活へ移行し、一定期間フォローアップされる。通常1-3年とされる定住施設利用期間内に自立生活に移行できない場合は、ケースに応じて利用期間の延長や、ストリートチルドレン支援の明記に関わらず協力・連携関係にある定住施設にて支援が継続される。

こうした一連の直接支援において社会復帰時に必要となる定住・就学・就業先の確保を支える間接支援が、活動資金提供やアドボカシーなどを行う民間支援団体によって重点的に担われる。支

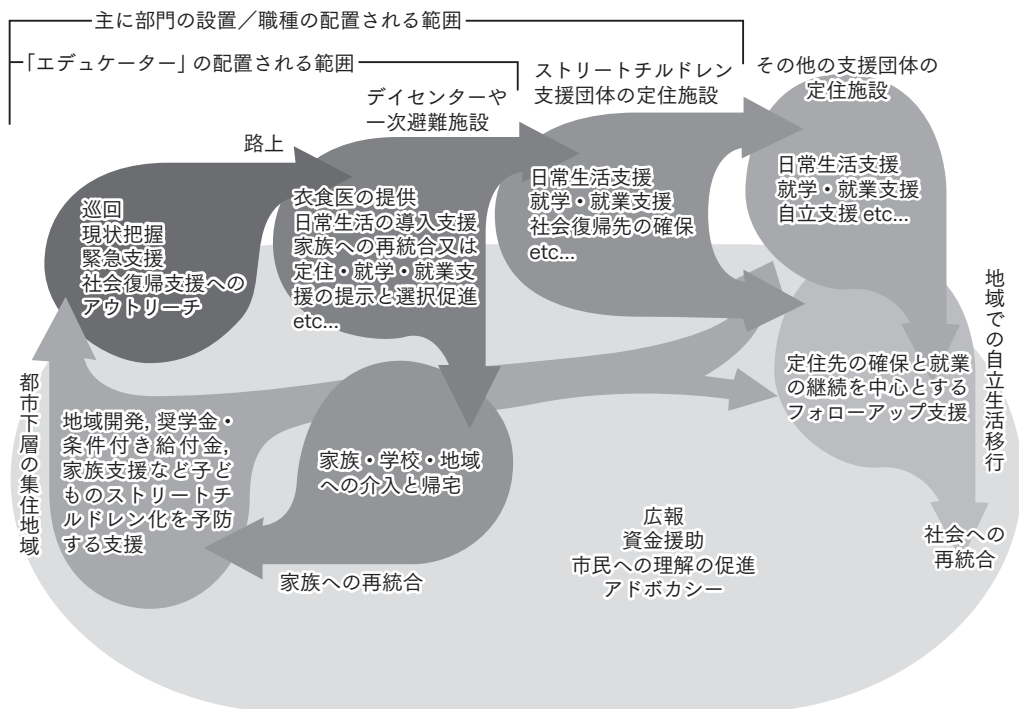


図1 メキシコ市におけるストリートエデュケーション実践

援の必要性を市民に周知し政策につなげるアドボカシー活動や、社会復帰支援にかかる様々な活動資金の提供、就学のための奨学金提供、支援のためのドネーション活動などが行われ、ストリートチルドレンが円滑に社会復帰できる社会の形成が促されている。

以上のように、メキシコ市におけるストリートエデュケーション実践は、ストリートチルドレンに対する支援過程においてそれぞれの段階で実施され、直接的にも間接的にも多層的に展開される。

おわりに

ストリートエデュケーションについて、既存研究を踏まえたのち、メキシコ市の「実践」を事例として多様な民間支援団体の協力・連携によりストリートチルドレンへのエンパワメントと彼らを生み出す社会の変革が促されていること示した。「実践」は「部門」や「職種」の設置・配置に関わらず多様な民間支援団体によって担われる一方で、アウトリーチを行い、ストリートチルドレンの置かれた状況を的確に理解・判断を通じて社会復帰支援へと繋げる「エデュケーター」が重要な役割を担うことが示唆された。

しかし、「エデュケーター」と「職種」の役割の検討が不十分となり、「実践」に基づく「理論」の精緻化に向けた検討はできなかった。メキシコ市以外の「実践」とその展開の可能性などに関しても検討が必要である。ストリートエデュケーションの各地への展開は今後も予測されることから、これらは今後の課題としたい。

注

- 1) ラテンアメリカ社会は、ごく少数の抑圧者が圧倒的多数の被抑圧者を支配する国内構造の外に、宗主国やアングロサクソンアメリカ社会による抑圧という二重の抑圧構造を抱える。ここに、抑圧者が被抑圧者とともに抑圧構造を変える必要があったのではないか。
- 2) 幼少期から路上で働いてきた親のもと、同様に幼少期から路上で働くケースでは、事故や犯罪被害、疾病、就学・就業機会の喪失などのリスクを認識していない者が多数みられる。
- 3) 普及の過程から、ストリートエデュケーションが社会教育として位置づけられていると考えられる。
- 4) 日本語文献ではストリートエデュケーションに関する記述は限られ、アジアやラテンアメリカ、アフリカの発展途上国におけるストリートチルドレンおよびその支援に関する論文や視察報告のなかで部分的に言及される。
- 5) INEGI の HP にて 2015 年の人口統計を参照。
- 6) 独立行政法人労働政策研究・研修機構の HP を参照。
- 7) メキシコ市官報 No. 95 を参照。

- 8) 2006年時のデータを用いたのは、一部の非常に早い段階から開始したものを除いて、主だったストリートチルドレン支援が1990年代に開始されており、現在では解散し、登録抹消されたものがあることに加えて、新たに設置されたストリートチルドレン支援を行う民間支援団体が限られるためである。なお、法制度の改正があり、民間支援団体の位置づけや区分、個々の活動状況は2019年現在とやや異なる。また、実際にはストリートチルドレンに薬物依存治療や定住施設などを提供するが支援を明記しない団体は、把握が困難なため本稿では除外した。
- 9) 2018年時点で登記が確認できたのは14団体である。
- 10) 国際NGOコベナントハウスのラテンアメリカにおけるストリートチルドレン支援専門機関のメキシコ支部。メキシコ合衆国内では独立した組織である。
- 11) 一連の支援活動からストリートチルドレンに寄り添った段階的支援の方法論とその必要性を『De la Calle A la Espranza (2000)』に示した。
- 12) ストリートチルドレンを生み出す地域への取り組みや貧困家族も支援しており、すべての支援対象者を合わせると499,000名に達する。
- 13) 全ての子どもは価値のある大切な存在であり、ストリートチルドレンはその価値を覆い隠すような様々な出来事によって自身が価値のない存在のように感じているだけで、本当の価値に気づくことで変わっていけることをテーマにした様々な紙芝居や教材を手作りしていた。
- 14) このなかには元ストリートチルドレンで、専門的な教育を受けた者を含む。

参考引用文献

- Agnelli, Susanna, 1986, *Street Children : A Growing Urban Tragedy*, London ; Weidenfeld & Nicolson Ltd.
- Comisión Para el estudio de los Niños Callejeros, 1992, *Ciudad de México : Estudio de los Niños Callejeros*, COESNICA.
- 千葉みずき 2010 「テラシー実践分析における新たな視座の一考察——ケニアの成人テラシー・センターを事例に」『学校教育学研究論集』21 : 11-27
- Freire, Paulo, 1989, *Educadores de Rua*, Bogotá : UNICEF.
- Freire, Paulo, 2005, *Pedagogia do Oprimido*, 46.ed. Rio de Janeiro : Paz e Terra. (=三砂ちづる 2011『新訳被抑圧者の教育学』亜紀書房)
- Fundación Pro Niños de la Calle, I.A.P., 2000, *De la Calle A la Espranza*, Fundación Pro Niños de la Calle, I.A.P..
- 畑恵子 2005 「メキシコの社会扶助一変容と家族支援政策」宇佐見耕一編『新興工業国の社会福祉——最低生活保障と家族福祉』日本貿易振興機構アジア経済研究所 : 353-387

- 深尾幸市 2011 「キンシャサにおけるストリートチルドレンの現状と NGO の取り組み」『ボランティア学研究』11：69-84
- 小木曾宏 2009 「世界における児童労働の現状と支援のあり方について——フィリピン，カンボジアにおけるストリートチルドレン支援に関わって」『淑徳大学総合福祉学部研究紀要』43：37-48
- 小松仁美 2010 「メキシコ合衆国首都 DF におけるストリート・チルドレン——近住拡大家族が果たす役割に着目して」『ラテンアメリカ論集』44：55-73
- 小松仁美 2019 「メキシコ市における今日のホームレス問題——1990 年代にストリートチルドレンであった子どもたちのその後」『総合福祉研究』23：143-156
- Oliveira, Walter F.de., 2007, *Educação Social de Rua: Bases Históricas, Políticas e Pedagógicas*, Rio de Janeiro : Hist.cienc.saude-Manguinhos, 14(1) : 135-158
- Otero, Luis, 1999, *Los Niños en la Calle y de la Calle : Problemática y Estrategias para Abordarla, México*, Academia Mexicana de Derechos Humanos.
- 太田まさこ 2011 「問題解決型エンパワーメント・アプローチの効果と課題——インド，アンドラ・プラデシュ州，マヒラー・サマーキアーの事例をもとに」『アジア女性研究第』20：1-19
- Rita de Cacia Borges Liberalesso・Claiton José Grabauska, 2004, *Educação popular e educação social de rua: construindo aproximações*, Revista Educação Especial, 23.
- Moulin N.・Pereira V., 2000, *Chapter 2: Families, Schools, and the Socialization of Brazilian Children: Contemporary Dilemmas that Create Street Children*, Children on the Streets of the Americas: Globalization, Homelessness and Education in the United States, Brazil, and Cuba, Kentucky : Routledge.
- 中嶋裕子・中島友子 2010 「ストリートチルドレン・働く子どもを対象とするインドの NGO 活動の理念と実際——NGO バタフライズの活動」『近畿医療福祉大学紀要』11(1)：1-13
- Silva de Paiva, J., 2005, *Educação de Rua: (Im) Possibilidades de Inclusão*, Psicopedagogia On Line.
- Silva de Paiva, J., 2006, *Paulo Freire e a Educação de rua*, Psicopedagogia On Line.
- Silva de Paiva, J., 2010, *Epistemologia da Educação Social de Rua*, Scientific Electronic Library Online.
- Silva de Paiva, J., 2012, *Educação Social de Rua: Renovando os Debates e As Práticas*, São Paulo : Pedagogia Social.
- 谷川とみ子 2004 「現代アメリカ合衆国における P. フレイレの『リテラシー』論の受容と継承——I. ショアの『批判的リテラシー』論とその授業実践に焦点をあてて」『京都大学大学院教育学研究科紀要』50：144-157

UNICEF, 1996, *II Censo de los Niños y Niñas en Situación de Calle: Ciudad de México*, UNICEF.
ユニセフ 2006『世界子供白書 2006——存在しない子どもたち』(財)日本ユニセフ協会

民間支援団体の URL 一覧

Ayuda y Solidaridad con las Niñas de la Calle 2015 [Home] (<http://ayuda.org.mx/>, 2019.1.11)
Casa de los Niños de Palo Solo 2019 (<http://www.palosolo.org.mx/>, 2019.1.11)
EDNICA ednica (<https://ednica.org.mx/>, 2019.1.11)
Fundación Casa Alianza México 2019 [Home] (<https://casa-alianzamexico.org/>, 2019.1.11)
Fundación Clara Moreno y Miramon 2019 [Inicio] (<http://www.claramoreno.org/>, 2019.1.11)
Fundación Dar Y Amar (Casa DAYA) [Home] (<https://www.daya.org.mx/>, 2019.1.11)
Fundación Dejame Ayudarte 2019 [Home] (<http://www.dejameayudarte.com/>, 2019.1.11)
Fundación Pro Niños de la Calle 2019 [Fundación Pro Niños] (<http://www.proninosdelacalle.org.mx/>, 2019.1.11)
Hogares Providencia 2017 [Inicio] (<http://hogaresprovidencia.org.mx/>, 2019.1.11)

行政機関の URL 一覧

Ciudad de México 2017 [Gaceta Oficial de la Ciudad de México (31 de Enero de 2017, No. 255 TOMOI)] (<http://www.sideso.cdmx.gob.mx/documentos/2017/Secretarias/styfe/Poblaciones%20Callejeras.pdf>, 2018.7.9)
Ciudad de México 2016 [Gaceta Oficial de la Ciudad de México (16 de Junio de 2016, No. 95)] (http://www.data.educacion.cdmx.gob.mx/oip/2016b/A121/FI/148_LinmeamientosINFO MEX2016.pdf, 2019.4.10)
COPRED 2016 [Poblaciones callejeras] (<http://data.copred.cdmx.gob.mx/por-la-no-iscriminacion/poblaciones-callejeras/>, 2018.6.30)
独立行政法人労働政策研究・研修機構 2018 [2019年最低賃金を発表] (https://www.jil.go.jp/foreign/labor_system/2018/12/mexico.html, 2019.4.16)
INEGI [INEGI] (<http://www.beta.inegi.org.mx/>, 2018.5.20)
JAPDF [FUNDACION EMMANUEL, I.A.P.] (http://www.sideso.cdmx.gob.mx/documentos/JAP/Atenci_n_a_ni_os_y_j_venes/100_34.htm, 2019.1.11)
JAPDF [Directorio de instituciones] (<http://www.jap.org.mx/iaps/media/others/Diriap,2006.9.26>)
JAPDF 2019 [Registro de Instituciones de Asistencia Privada] (http://www.jap.org.mx/portal/index.php?option=com_wrapper&view=wrapper&Itemid=234&lang=es, 2019.1.11)

Structure of Street Education in Mexico City: A Theory –and Practice– Based Framework for Street Education

Hitomi KOMATSU

This paper explores the ways in which a pilot project on street education in Latin American society support street children and how it has been theorized, as this type of support is recommended all over the world.

In the review, street education theory was shown to empower street children and to be social transformation that does not produce them. Additionally, the practice of street education varies on the basis of the country, region, and private assistance group.

Therefore, exploring a case study of street education practiced by private assistance institutions in Mexico City considers the framework of its practical situation.

The results show that private assistance institutions provide support, both directly and indirectly, regardless of the presence or absence of a street education department or educators. Conversely, the role of street educator was found to be a vital part outreach for street children.

Keywords: Empowerment, Liberation, Latin America, Social Education, Street Children